チョ・ソンジン
ピアノ・リサイタル

SEONG-JIN CHO
조성진 피아노 리사이틀 Piano Recital

©Christoph Köstlin / Deutsche Grammophon

2024年6月12日(水) 19:00開演
サントリーホール

7:00p.m., Wednesday, June 12, 2024 at Suntory Hall

主催：ジャパン・アーツ
後援：駐日韓国大使館 韓国文化院
協力：ユニバーサル ミュージック ／ スタインウェイ・ジャパン

PROGRAM

ラヴェル： M. Ravel:

ソナチネ　Sonatine

第1楽章：中庸の速さで	1st Mov.: Modéré
第2楽章：メヌエットの速さで	2nd Mov.: Mouvement de Menuet
第3楽章：生き生きと	3rd Mov.: Animé

高雅で感傷的なワルツ　Valses nobles et sentimentales

夜のガスパール　Gaspard de la nuit

1. オンディーヌ（水の精）	1. Ondine
2. 絞首台	2. Le gibet
3. スカルボ	3. Scarbo

＊　＊　＊

リスト： F. Liszt:

巡礼の年 第2年「イタリア」S.161　Années de pèlerinage - Deuxième année “Italie” S.161

1. 婚礼	1. Sposalizio
2. 物思いに沈む人	2. Il pensieroso
3. サルヴァトール・ローザのカンツォネッタ	3. Canzonetta del Salvator Rosa
4. ペトラルカのソネット第47番	4. Sonetto 47 del Petrarca
5. ペトラルカのソネット第104番	5. Sonetto 104 del Petrarca
6. ペトラルカのソネット第123番	6. Sonetto 123 del Petrarca
7. ダンテを読んで ── ソナタ風幻想曲	7. Après une lecture du Dante – Fantasia quasi sonata

チョ・ソンジン 2024年日本公演

6月5日（水）［福　岡］	福岡シンフォニーホール（アクロス福岡）	主催：テレQ、（公財）アクロス福岡
6月6日（木）［倉　吉］	鳥取県立倉吉未来中心	主催：（公財）鳥取県文化振興財団
6月8日（土）［名古屋］	愛知県芸術劇場コンサートホール	主催：CBCテレビ
6月9日（日）［大　阪］	ザ・シンフォニーホール	主催：ABCテレビ
6月11日（火）［川　崎］	ミューザ川崎シンフォニーホール	主催：神奈川芸術協会
6月12日（水）［東　京］	サントリーホール	主催：ジャパン・アーツ

PROFILE

©Christoph Köstlin / Deutsche Grammophon

チョ・ソンジン（ピアノ）
Seong-Jin Cho, Piano

圧倒的な才能と生来の音楽性を持つチョ・ソンジンは、同世代の最も優れた才能を持つひとりとして、また現在の音楽界における最も異彩を放つアーティストとして名を成している。思慮深く詩的で、堂々としながらもやさしく、また極めてヴィルトゥオーソ的で色彩豊かな演奏は、貫禄と純粋さを兼備し、見事なバランス感覚によって生み出されている。

1994年ソウル生まれ。6歳でピアノを始め、11歳で初めて観客の前でリサイタルを行う。2009年浜松国際ピアノコンクールで最年少優勝。2011年には17歳でチャイコフスキー国際コンクール第3位入賞。2012-2015年にパリ音楽院でミシェル・ベロフに学ぶ。

2015年にショパン国際ピアノコンクールで優勝。国際的な脚光を浴び、瞬く間にキャリアを高める。翌年にドイツ・グラモフォンと専属契約締結。2023年、クラシック音楽界への格別の貢献を認められ、サムスン湖巌賞受賞。2024/25シーズンに、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団のアーティスト・イン・レジデンスに就任する。

これまでにベルリン・フィル、ウィーン・フィル、ニューヨーク・フィル等、世界有数の一流オーケストラと多数共演。指揮者ではチョン・ミョンフン、グスターボ・ドゥダメル、アンドリス・ネルソンス、サー・サイモン・ラトル等と定期的に共演している。

2023/24シーズンの活動には、ボルトン指揮モーツァルテウム管とのザルツブルク音楽祭デビュー、ロウヴァリ指揮フィルハーモニア管とのBBCプロムス再出演、コンセルトヘボウ管、ロサンゼルス・フィル、ボストン響との再共演や、クリーヴランド管、サンフランシスコ響、シカゴ響のデビューが挙げられる。またペトレンコ指揮ベルリン・フィルの韓国ツアー、ネルソンス指揮ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管との世界ツアー、ノセダ指揮ワシントン・ナショナル響とのヨーロッパツアー等にも参加した。

また、引く手あまたのリサイタル・ピアニストとして、これまでカーネギー・ホール、コンセルトヘボウ、ベルリン・フィルハーモニー、ウィーン楽友協会、サントリーホール、ヴェルビエ音楽祭等、世界の権威あるホールや音楽祭に多く登場しており、2023/24シーズンではアルテ・オーパー、シャンゼリゼ劇場、KKLルツェルン、カーネギー・ホール等でソロ・リサイタルを行っている。

最新の録音は2023年2月リリースの「ヘンデル・プロジェクト」。2020年5月にソロ・アルバム「さすらい人」、2021年8月にロンドン響とのショパン:ピアノ協奏曲第2番とスケルツォ集をドイツ・グラモフォンからリリース。

Seong-Jin Cho　　조성진

原 明美（音楽評論家）
Akemi Hara

ラヴェル：ソナチネ

フランスの作曲家モーリス・ラヴェル（1875−1937）は、古典的な格調高さを帯びた精緻な構成をベースにしながら、スペイン音楽などの異国情趣も取り入れ、個性的な傑作を数多く残した。

或る音楽雑誌が催したコンクールへの応募を契機として、1905年に書きあげられた「ソナチネ」は、ラヴェルの友人であるゴドフスキ夫妻に献呈された。曲は、「ソナチネ」即ち小規模な「ソナタ」のスタイルにより、3楽章から成る。均整のとれた古典的な形式が採り入れられているだけでなく、セザール・フランクにならった循環形式も用いられ、さらに、その無駄のない簡潔な構成のなかに、ラヴェルならではの優美な情趣が盛られている。

第1楽章　「中庸の速さで」。ソナタ形式。コンパクトにまとめられたなかに、新鮮な響きや、流麗な美しさがきわ立つ。

第2楽章　「メヌエットの速さで」。3部形式。優雅な舞曲のスタイルで書かれ、その素朴な旋律線は、絶妙な和声進行によって美しく彩られている。

第3楽章　「生き生きと」。自由なソナタ形式。トッカータ風のフィナーレであり、華やかでピアニスティックな盛り上がりを見せる。

ラヴェル：高雅で感傷的なワルツ

1911年に作曲されたこのワルツについて、ラヴェル自身は、「シューベルトを手本にした一連のワルツ」である、と述べており、シューベルトの「34の感傷的なワルツ」と「高雅なワルツ」を意識して作曲されたと考えられている。翌1912年には、バレエ団からの依頼によってオーケストラ用に編曲され、「アデライド、または花言葉」というバレエとして初演されたが、そのとき指揮を受け持ったのはラヴェル自身だった。そして、ピアノ版、オーケストラ版ともに、前者を初演したピアニストのルイ・オベールに献呈されている。曲は、切れ目なく続く八つの短いワルツから成るが、最後の第8曲だけは特に「エピローグ」と題され、第7曲までのワルツの回想を含んだ内容となっている。

ラヴェル：夜のガスパール

ラヴェルが1908年に完成させた傑作。3曲から成り、それぞれ異なる人物に献呈された。標題「夜のガスパール」は、ルイ・A.ベルトランの幻想的な散文詩から取られ、ラヴェルは、曲の譜面に、元となった詩をイメージとして書き添えている。

第1曲　**「オンディーヌ（水の精）」**　湖に住むオンディーヌ（水の精）が、窓をつたって人間の若者に愛をささやくが、彼に裏切られ、涙をこぼしたかと思うと大きな笑い声をあげ、窓ガラスをつたう雨のなかへ流れ去る。ラヴェルの精妙かつ幻想的な書法が注目される。

第2曲　**「絞首台」**　不気味な鐘の音が鳴り続くなか、絞首台にさらされた罪人の抱く妄想や、沈みゆく夕陽に照らし出される恐ろしい光景が、凄まじい圧迫感を伴って描かれる。

第3曲　**「スカルボ」**　地底の精で、いたずら好きの小悪魔的なスカルボが、月光に導かれて人間の部屋に出没する。そして、大きな跳ね回りを繰り返したかと思うと、突然青ざめて、ろうそくの火が消えるように失せてしまう。そうした光景がスケルツォ風に描写され、技巧をこらしたピアニスティックな展開を見せる。

リスト：「巡礼の年」第2年「イタリア」S.161

ピアノ独奏曲だけでも数百曲を書き残したとされるフランツ・リスト（1811−86）は、超絶的な演奏技巧で名声を博した大ピアニストだった。ハンガリーのライディング（現在はオーストリア領）に生まれた彼は、若いころパリに出て、サロンのピアニストとして人気を集め、ヨーロッパ全土を活動の場とした。そして、サロンに出入りする数多くの芸術家たちと交流を深め、文学や美術の知識を吸収した。

「巡礼の年」は、リストがパリのサロンを離れたのち、恋人のダグー伯爵夫人と共に各地を旅した印象などをもとに、作曲したピアノ曲集であり、全4巻から成る。このうち「第2年イタリア」S.161は、次の7曲で構成されている。1838年から1849年の間に作曲されたが、まとまった形で出版されたのは1858年のことである。

第1曲　**「婚礼」**　イタリアの画家ラファエロの名作で、聖ヨゼフと聖母マリアの婚礼を描いた「婚礼」を見た印象を、音楽に表現した曲であり、洗練された響きに包まれている。

第2曲　**「物思いに沈む人」**　フィレンツェの聖ロレンツォ教会にあるメディチ家の墓に名匠ミケランジェロが刻んだ像に、インスピレーションを得て作曲されたという。

第3曲　**「サルヴァトール・ローザのカンツォネッタ」**　17世紀イタリアで活躍したS.ローザが書いたと考えられているカンツォネッタの旋律に基づいた、リズミカルな1曲。

第4曲　**「ペトラルカのソネット第47番」**　第4曲・第5曲・第6曲と、「ペトラルカのソネット」と題する曲が続く。この3曲は、元来は歌曲として、14世紀イタリアの偉大な詩人ペトラルカの『抒情詩集』に含まれる三つのソネット（14行詩）に曲が付けられたが、その後、ピアノ独奏用に編曲された。「第47番」では、もとの詩にうたわれた至福の境地が、ロマンティックな楽想のなかに表現されている。

第5曲　**「ペトラルカのソネット第104番」**　「私を救って下さるのは、あなただけです」という内容をうたったもの。救いの手を求めて揺れ動く心情を、リストはロマンティックに表現する。

第6曲　**「ペトラルカのソネット第123番」**　天使のような美しい人への憧れをうたった曲であり、夢想的で抒情的な楽想が印象的である。

第7曲　**「ダンテを読んで ── ソナタ風幻想曲」**　標題はヴィクトル・ユーゴーの詩集『内なる声』のなかの詩から取られたが、曲の内容は、13〜14世紀イタリアの大詩人ダンテの『神曲』の「地獄篇」からヒントを得たものとされている。「地獄篇」に描かれた暗く不気味な情景を幻想的かつ劇的に表現する一方、副題に「ソナタ風幻想曲」とあるように、単一楽章のソナタとも言える壮大かつ緊密な構成で書かれた1曲である。

ARTIST SUPPORT

【アーティストサポート】へ、多くの皆様からお気持ちをお寄せいただきましたことに、
心より感謝申し上げます。
寄せられたご支援は、アーティストの様々な活動に幅広く使わせていただいております。

「人のいるところには夢がいる」創業48年来のジャパン・アーツの理念です。
どんな時代においても、音楽・芸術から生まれる感動は、
人々に夢・希望・生きる力を与えてくれます。

これまでの活動レポートは、ジャパン・アーツのホーム・ページに
掲載しておりますので、どうぞご覧ください。
今年度も変わらぬご支援をどうぞよろしくお願いします。

アーティストサポートの詳細は
こちらをご覧ください。

2024年度ご支援いただいた皆様

＜2024年度 年間サポート＞

上原啓子　K.O　小田島容子　片山由美子　H.K　栗田美知子　新貝康司
M.S　M.T　R.T　A.D　トゥルーラブ真知子　トゥルーラブ真凛　S.N　平山美由紀
藤野盾臣　松尾芳樹　真野美千代　J.M　（株）青林堂
（匿名希望 7名）

＜2024年 ウィーン少年合唱団 オフタイム・サポート＞

井口和美　K.K　Rimiko　M.H　M.M　真野美千代　ロロコミ・リリコミ
（匿名希望 8名）

＜2024年 ウィーン少年合唱団 ツアー・サポート＞

井口和美　T.O　K.K　Rimiko　平山美由紀　細沼康子　M.M　真野美千代
村瀬治男　ロロコミ・リリコミ
（匿名希望 6名）

2024年6月1日現在　敬称略

ご支援についての詳しい内容は、どうぞ下記へお問い合わせください。
株式会社ジャパン・アーツ アーティストサポート係 Tel.03-3499-7720（平日11:00～17:00 年末年始を除く）